

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



熱中体験を生み出すために

大学生のころ、自分の生まれ育った故郷のことをもっと深く知りたいと思い、実行に移した計画があります。

自転車・北海道一周の旅です。

友達2人と、テントや食料を積み込んで北の大地を走り続けました。

総走行距離約1300km、日数は11日間。

基本的にキャンプ場を経由しながらほぼ野宿の連続で、標高1000m越えの山脈を越えたり、世界遺産の知床にも行ってきました。

自転車を抱えながら川を渡ったり、どしゃぶりの峠道で立ち往生したりとハプニング続きでしたが、それすらも只々楽しかった記憶があります。

それに、何の意味があるのかと問われると答えに窮します。

が、将来に直接結びついていなくとも、自ら「やりたい」と思えたことにぶつかっていった経験には、大切な意味があると考えています。

将棋界では知る人ぞ知る、永世棋聖・故米長邦夫の本をよく読みます。

彼は「内発的な無駄の積み重ね」を強く推奨しています。

一見何の役に立つか全く分からない事でも、興味をもって何かに熱中する経験は、将来どの分野においても必ず役立つのだといいます。

いわゆる、「熱中期」です。

これは、様々な分野の第一線で活躍される方が異口同音に話すことです。

これまでに様々な機会を通じて、子どもたちが様々なことに取り組んでいる話を伺いました。

「家でも読書が大好きで、ずっと読んでいます。」

「とにかく体を動かすことが大好きです。」

「折り紙を夢中で折り続けています。」

などなど。

わき目もふらず熱中できるものがあることは、とても素晴らしいことです。将来にどのようなつながるかは明確に分からなくとも、そのような「熱中する経験」をした子は必ず伸びると言われているからです。

では、その熱中を生むための条件とは何なのでしょう。

「好き」や「面白い」など、前向きな感情の存在も確かに大切です。

でも、好きなことや面白いことが全て「熱中」を生むかと言えばそうではありません。

今週の火曜日。

ある子がこんな話をしてくれました。

「明日ね、ハンドベルの発表会なんだよ。」

練習を重ねてきた演奏を多くの方に聞いてもらう場は、さぞかし緊張した事でしょう。

でも、この「緊張」にこそ、熱中を生むための秘密が詰まっています。

熱中が生まれるには、充実感や達成感など、自分の「成長」を真に体感できる体験や場が必要です。

そして、その成長は、緊張場面をくぐることによって劇的に加速するといわれています。

毎回、心地いい場や快適な環境を準備するだけでは、この緊張場面は生まれません。

ですから、子どもたちの健やかな成長のためには、以前も書いた、子どもたちが歩く道の上に小石をそっと置くかのように、やはりどこかで越えにくい壁に挑む体験が必要なのだと思います。

もちろん、緊張場面ですから、結果は上手くいく事ばかりではありません。むしろ、プレッシャーがかかる場で悔しい思いをすることの方が多いでしょう。

でも、そうした苦さや辛さがあるからこそ、乗り越えた時の達成感や充実感は計り知れないものになります。

そして、その達成の喜びや体に確かに残る熱いパッションなどが、「熱中」へとつながっていきます。

私は、常々学校教育の中にこうした「熱中体験」をもたらしたいと思って

きました。



実際にこれまで受け持ったクラスでは、そうした場面が幾つも生まれてきましたし、SOLAN においても引き続きそれを実現したいと思っています。

ただ、そのためには、前号で書いた「当たり前だけど、とても大切なこと」のような基本的な“学習規律”や“生活習慣”が身についていることが前提となります。

無秩序な集団に熱中体験の種だけをまくと、揉め事や争いが頻発し、結果的に集団全体の成長が阻害されてしまう現象が起きるからです。

心技体とはよくいったもので、技や知を磨くだけではなく、心も同時に磨いていく事が健やかな成長の上では必須です。

そうした中で、SOLAN 特有の難しさの一つに「英語」を用いた学習を進める難しさがあります。

オール English で進められる授業（英語はもちろん、体育や図工や音楽、生活や算数の一部）においては、学習規律が徹底しにくい面が存在します。

なぜなら、先生の話す言葉が全ては理解できないからです。

分からない言葉を聞いたり理解するだけでも幾つかハードルがあるところ

に、そこから先生の伝える学習のルールをチーム全員でできるようになるまでには、相当なハードルの高さがあります。

実際に、体育の授業などでは当初「集合」や「整列」すら、中々ままなりませんでした。

そこから言葉の意味を伝え、なぜルールを守るのかという目的を伝え、出来るようになるまで繰り返し声を掛け続けてきました。

その歴史を経て、子どもたちの集合の様子は少しずつ変わってきました。例えば、今週の1-3の体育の様子を紹介します。

<https://youtu.be/ysuhBv6opMU>

第1クォーターに比べると、着実に集合整列の様子が変わってきました。

ささやかな場面かもしれませんが、私はこの場面を見て子どもたちの大きな成長を感じました。

また、最近体育では準備運動にボルダリングを取り入れています。

<https://youtu.be/ygA8hOPn1pA>

一つ一つストーンをつかみながら、自分の最高記録を目指して上り続ける姿がとてたくましいです。

また、英語の学習における先生とのやり取りも少しずつスムーズになってきた様子が見られます。

<https://youtu.be/N4t3zgVehfg>

改めて書きますが、言葉が全てでは理解できない中で、学習内容だけでなく大切な学習習慣や規律を身に着けていく事はとても難しいことだといえます。

その難しい壁に挑んでいる子どもたちの姿を、これからも応援し続けたいと思います。

ちなみに熱中期の大切さは、何も子ども時代に限ったことではありません。

大人だって、いや子どもたちが背中を見ている大人だからこそ、熱中期を創り、楽しみたいものです。

自分自身も子どもたちに負けないように、新たな課題・難しい課題に挑むチャレンジングな姿勢を持ち続けられるように努めたいとおもいます。

最後に、大好きな詩の一節を紹介します。

青 春 (サミエル・ウルマン)

青春とは、人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。(後略)

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#) (渡辺道治)